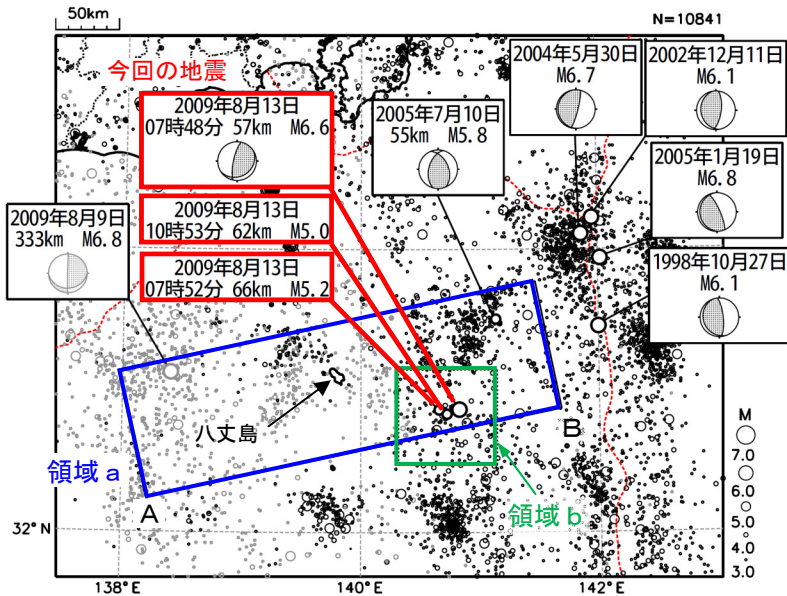


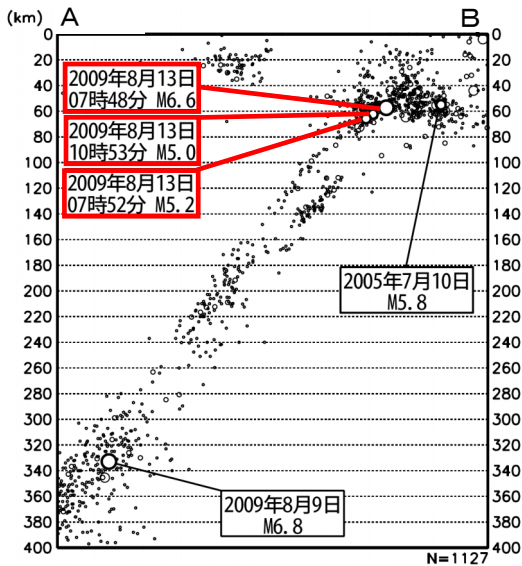
8月13日 八丈島東方沖の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2009年8月31日、
深さ0~400km、M≥3.0)

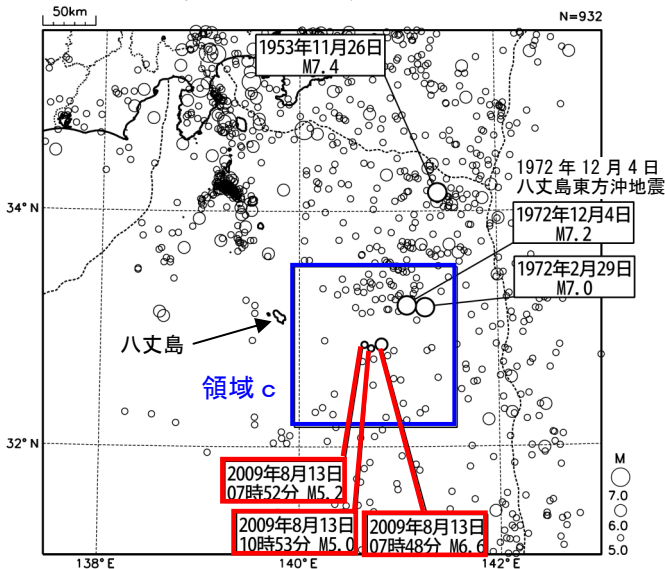
発震機構解はCMT解を表示。深さ100km以浅の震源を濃く表示。



領域a内の断面図 (A-B投影)



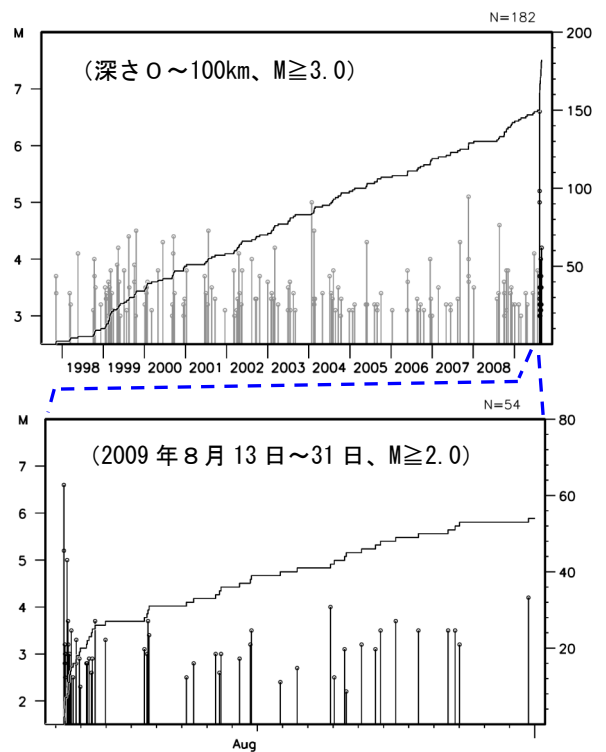
震央分布図 (1923年8月1日~2009年8月31日、
深さ0~120km、M≥5.0)



2009年8月13日07時48分に八丈島東方沖の深さ57kmでM6.6の地震(最大震度5弱)が発生した。発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。本震発生後、M5.0以上の余震が同日07時52分(M5.2、最大震度2)と10時53分(M5.0、最大震度2)に観測されたが、15日以降、活動は低下し、余震活動は収まりつつある。

1997年10月以降、今回の震源付近(領域b、深さ100km以浅)ではM5.0前後の地震が時々発生している。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降、今回の震央周辺(領域c、深さ0~120km)では、1972年2月29日にM7.0の地震(宮城県石巻市鮎川で最大の津波の高さ24cm)、1972年12月4日にM7.2の地震(和歌山県串本町袋港で最大の津波の高さ35cm)が発生している。

領域c内の地震活動経過図

